

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 27 年前期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	近藤 雄太	会員番号	0034204
申請者の所属・職名	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 分子免疫学分野 大学院生		
出席会議名	IMMUNOLOGY2015 (The American Association of immunologists)		
発表論文タイトル	Effects of anti-VISTA mAb and its combination therapy in antitumor immunity		

実施結果:

この度は“Tadamitsu Kishimoto International Travel Award”に選出していただき誠に有難うございました。私は 2015 年 5 月 8 日から 12 日までルイジアナ州ニューオーリンズで開催された IMMUNOLOGY2015 AAI annual meeting に参加させていただきました。AAI annual meeting は世界中から多くの優秀な科学者、若い研究者が多く集い活発に発表、討論されていました。特に、免疫チェックポイント阻害療法の臨床結果が多くの研究者を集め注目されていました。その中でも Nivolumab (PD-1) and / Ipilimumab (CTLA-4) 抗体を用いた Combined checkpoint blockade が PD-1 または CTLA-4 Single Treatment と比較しさらなる抗腫瘍効果がメラノーマだけでなく他の癌腫においても報告されていました。また、PD-1 や CTLA-4 阻害効果を認めない場合へのアプローチが今後の課題とされていました。私自身、日本と比較し欧米では非常に速く研究が進んでいる印象を受けました。

今回、「Effects of anti-VISTA mAb and its combination therapy in antitumor immunity」という演題でポスター発表を行いました。V-domain Ig Suppressor of T-cell Activation (VISTA) は T 細胞機能を制御する新規免疫チェックポイント分子として報告され、T 細胞および抗原提示細胞の両細胞表面に恒常的に発現している分子です。本研究では、マウス VISTA に対する抗体を作成し、マウスモデルにおいて VISTA 阻害抗体単独もしくは、CTLA-4 あるいは PD-1 阻害抗体との併用効果を検討しています。現在、免疫チェックポイント分子は非常に注目を集めている分野のためか、多くの研究者の方々に興味を持っていただき、多くの意見をいただくことが出来ました。しかしながら、自分が思っている事を伝える難さも痛感するとともに今後さらなる研鑽を積まなければと考えさせられました。本学会に参加、発表することで多くの意見と最新の研究成果を得ることが出来ました。また、多くの国内外の研究者と交流をすることで視野を広げ今後の研究にも生かされるものと考えています。

最後にこのような貴重な機会を与えていただいた岸本忠三先生をはじめ日本免疫学会選考委員の先生さらに、ご指導ご推薦頂いた東みゆき先生ならびに研究室の皆様に感謝申し上げます。